

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、三和圏域） 第1回会議 議事録

開催日時	令和5年6月22日（木） 9時半から11時まで
参加者	委員：7人 事務局：6人 その他：4人（市役所・地域包括支援センター）
場所	白脇協働センター ホール
内容	<p>1. 開会 新任の委員、関係機関の職員を紹介した。</p> <p>2. 挨拶 飯田・白脇地区生活支援体制づくり協議体 会長</p> <p>3. 協議内容</p> <p>①これまでの振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度飯田・白脇地区生活支援体制づくり協議体について 前任生活支援コーディネーターより、令和4年度 飯田・白脇地区生活支援体制づくり協議体について振り返りをした。 ・（飯田地区）飯田地区社協サロン情報交換会の報告 地域包括支援センター三和より、昨年度行われた「サロン運営ボランティア情報交換会」で意見交換をしてわかったこと（サロン活動の良いところや困っているところ等）が共有された。 ・（白脇地区）「第2回 地域課題をともに考える会」の報告 生活支援コーディネーターより、浜松市立南部中学校にて6月12日に開催した「地域課題をともに考える会」の当日の流れや南部中学校の生徒と意見交換をしてわかったことを共有した。 <p>②これからの方向性について</p> <p>〈飯田地区〉家事支援事業の段階的な展開に向けて、特定の町でモデル的に実地するのか、民生委員からのみ依頼を受けるのかなど活動者も含めて協議していく。</p> <p>〈白脇地区〉中学生と協働した地域活動について、挙げられているアイデアを基に具体的な展開に向けて協議していく。</p> <p>③【情報共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地区における家事支援の活動内容や方法について コミュニティソーシャルワーカーより、他地区の事例を参考にしながら家事支援の概要（活動内容や方法、流れ）について情報共有をした。 ・他地区における地域と中学生とが連携した活動について 前任生活支援コーディネーターより、家事支援部の活動に中学生がボランティアとして参加している他地区の事例を共有した。

④【意見交換】

地区ごとに分かれて、意見交換をした。

4. 次回の協議体会議の日程について

日時：10月26日（木）9：30～11：00

会場：飯田市民サービスセンター（東部地区体育館）講座室A・B

5. 連絡事項

6. 閉会

〈飯田地区グループワーク内容〉

■買い物支援について

- ・買い物に関しては、自分で見て品物を決めたいという気持ちの人が多。近くにスーパーがない地域は移動スーパーがあり、また今はネットで注文して自宅まで配達してもらえるサービスも充実しているため、買い物支援はそこまで必要性はないか？ネットで注文することに利便性があるのなら、スマホでの注文の仕方等の講座を開催するといいかも。かもしれない。

■家事支援について

- ・中学生にも地域支援にかかわってもらうために、中学生にゴミ出しの支援をお願いするという案も出たことがあるが、各学校の校長先生の意見も様々であり、またゴミ出しをすることで通学路から外れてしまうこともあるため実現は難しい。
- ・最初から大々的に事業を展開すると大変になるため、はじめは2,3町から試験的に少しずつやってみてはどうか。対象者は困っている高齢者とし、草取りやゴミ出しの支援から始めてみる。

■家事支援を始めるにあたっての不安点、気になる点

- ・地域の家事支援を開始するにしても、初めて会う人に支援を頼むのは抵抗があるのではないか→地域に住んでいる人(同町内)であれば比較的安心できると思われるが、今後課題になる可能性もあり。
- ・買い物等、今は親族や近隣の方が支援してくれている場合、家事支援を導入することで家族関係や近隣関係が希薄になってしまうのではないか。

上記内容を踏まえ、民生委員の津川会長より地域の民生委員さん達の意見を聞いていただくことになった。

〈白脇地区グループワーク内容〉

■趣味を生かした活動について

- ・地域課題をともに考える会のグループワークのなかで、中学生から趣味（写真・釣り・アクセサリ作り、手芸、ゲームなど）を生かした活動をしたいと意見があった。地域の人と共有できるといいのではないか。

⇒ [写真について] 地域に写真が好きで、得意な方がいる。中学生がやりたくても、写真などは道具が揃っていない場合がある。今はスマートフォンでうまく撮れるので、それでも良いのでは。スマホの取扱いは生徒の方が詳しいので、生徒が講師になっても良いかもしれない。

⇒ [釣りについて] 以前は、白脇地区で釣りのイベントあり、新居海浜公園に行くことがあったが、今では大人のイベントになっている。いろいろなことができると思うが、安全面などを考えると慎重になってしまう。

■中学生を交えたその他の活動について

- ・小学校で社会（歴史）について話をしている。学校も地域を巻き込んだ活動をしたいと考えている。一緒にやっていきたいという思いがある。
- ・スマートフォンの講座を中学生に関わってもらえると良い。講師は携帯会社の人をお願いして、サポートを生徒をお願いするのはどうか。年配の方との交流の機会になる。
- ・可美地区のまつりでは、中学生が出店の担当（会計）をしていた。とても良いことだと思う。

■課題、今後の取り組み

- ・地域のつながりのために新しいことを始めることができても、継続性が難しい。
- ・持続性が大切だと思う。役員や参加者の負担を少なくできるか。
- ・今までは、住民のためのイベントがあったが、コロナ禍でできなくなった。再開していくことが大切。
- ・地域の活動に中学生に参加してもらい、役割を持たせることが大切だと思う。

今後の見通し等

〈飯田地区〉

家事支援事業の段階的な展開に向けて、特定の町でモデル的に実地するのか、民生委員からのみ依頼を受けるのかなど活動者も含めて協議していく。

〈白脇地区〉

中学生と協働した地域活動について、挙げられているアイデアを基に具体的な展開に向けて協議していく。